

台湾音楽イベント会場爆発事故に対する「人工皮膚」寄贈のお知らせ

2015年6月27日に台湾・台北郊外の音楽イベント会場で発生した爆発事故で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

グンゼ株式会社(本社:大阪市、社長:児玉 和)はこの度の爆発事故に関し、日本赤十字社に7月10日、「人工皮膚」を寄贈いたしました。

この「人工皮膚」はグンゼの真皮欠損用グラフト「ペルナック®」で、12日朝に台北に到着し、すでに16の病院に配布され手術が行われています。

1. 支援の概要

(1) 支援物資 真皮欠損用グラフト(一般名称:人工皮膚)
商品名 「ペルナック®」 ※日本製

(2) 数量 500枚程度(4.7㎡)(2,300万円相当)
※10~30人の処置に役立てられます

2. その他

日本赤十字社が台湾赤十字に日本製の「人工皮膚」(1億円相当)を7月5日、寄贈されました。そのうち、約半数は当「ペルナック®」を利用いただきました。



台湾空港に到着したグンゼの「人工皮膚」
(日本赤十字社提供)

■ 真皮欠損用グラフト(人工皮膚)とは

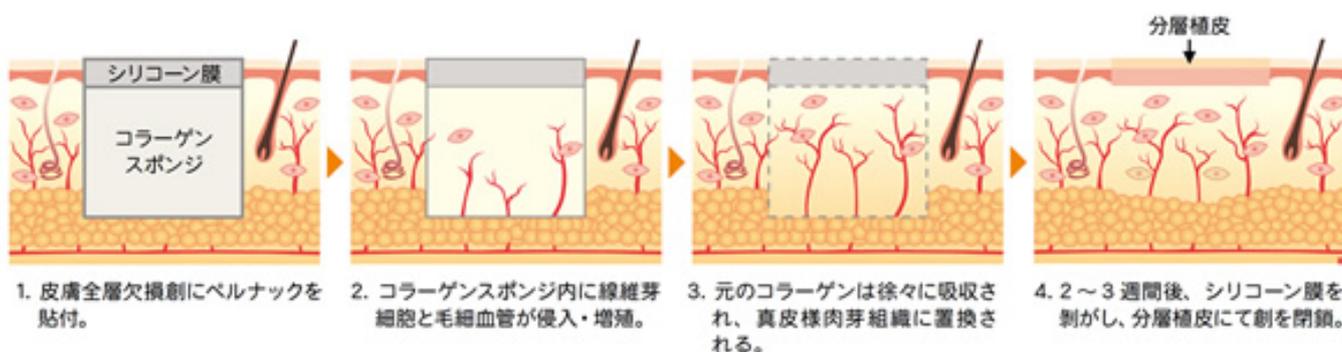
真皮欠損用グラフトは、重度のやけどや外傷で深い皮膚組織の治療に使用される「人工皮膚」です。

グンゼの「ペルナック®」は、組織再生の足場になるスポンジ状のコラーゲン層を有するシートで、損傷した皮膚に貼付すると、コラーゲンスポンジの空隙に毛細血管や繊維芽細胞が入り込み、2～3週間でコラーゲン層が真皮様組織に置き換わります。手術後のケロイドや皮膚の引きつれも少ない上、美容的にも優れているので、術後の患者様のQOL(クオリティオブライフ)の向上に貢献します。



真皮欠損用グラフト「ペルナック®」

真皮欠損用グラフトによる治癒のイメージ



【参考】グンゼのメディカル事業

グンゼでは祖業の製糸技術を生かし、1986年に手術後に抜糸の必要がない生体吸収性縫合糸を日本で初めて事業化し、メディカル事業をスタートしました。その後、縫合補強材、骨接合材など生体吸収性の医療材料を中心に事業を展開してきました。

真皮欠損用グラフト「ペルナック®」は1996年より販売を開始し、現在では日本国内をはじめ、南アメリカ、中国、中東など幅広い地域で販売しています。

以上

本件に関するお問合せ先

報道関係の方からのお問合せ 広報IR室(大阪) TEL:06-6348-1314(担当/小倉・渡辺・仲谷)
(東京) TEL:03-3276-8676(担当/前川)

■ GUNZEホームページ

<http://www.gunze.co.jp/>

■ GUNZEメディカル事業部ホームページ <http://www.gunze.co.jp/medical/>